

ふくしま

再生 短信

2022/10/20 福島県、大久保金一さんの受賞発表

第25回いきいき長寿県民賞

花仙人掌一さん受賞おめでとう！

2022年10月20日、福島県・社会福祉法人福島社会福祉協議会は第25回いきいき長寿県民賞を飯館村小宮の大久保金一さんが受賞すると発表し

た（写真1、2022年5月満開の桜を愛でる金一さん）。今回県民賞には個人24名と3団体の応募・推薦があり、そのうち個人5名の受賞が決定した。

小宮を訪ねる学生たちが名付けた花仙人掌一さんは県のインタビューに、「・幼い頃より、花好きだったため、農地の片隅にスイセンやアヤメなどを育て続け、いつか家の周りに桜



1

を植えたいという夢を持っていました。しかし、親が苦勞して開いた田をつぶせないとの思いから実現せず、皮肉にもその夢を後押ししたのかもしれない。平成23年3月の原発事故となつてしまいました。生業であつた農業に希望を見失うほどの打撃を受けたため、親子3人でここまでしてきた土地を今後見守るためにも、いっそ農地を一面の花で満たそうと決断しました。たくさんのボランティアに支えら

れ、復興のシンボルとして、また、原発事故を風化させないためにも、飯館村を訪れた人の心の癒しにと、これまで花園形成を進めてきました。．．．と喜びを語る。（福島県・社会福祉法人福島県社会福祉協議会発行「受賞者の横顔」はつらつとして輝いている人より）

金一さんは農園の西側を流れるマキバ川にちなんで一帯の花園をマキバノハナゾノと名付けている。10歳で野の花と出会い、14歳で草花の群生地づくりに成功。再生の会との協働から9年、念願の桜の植樹会から8年、ハナゾノを育てて70年（囲みの年譜



参照）。金一さんの珠玉の語り「山は食を満たし人生を満たしてくれる宝」（写真2、2016年再生の会カタクリツアーにて。県民賞受賞誠におめでとうございませう。文責&撮影・若林一平）



2

△大久保金一さん・マキバノハナゾノ年譜△

- 1940 金一さん誕生
- 1950 小5～6、クリンソウ・ヤマユリとの出会い、ハナゾノづくり始まる
- 1954 中3、草花の群生地づくりに成功
- 1982 飯塚さん訪問、交流始まる
- 1994 花博に参加、知見拡大
- 2011 3/11 福島第一原発事故で被災し避難生活へ、飯塚さん、避難先仮設住宅を訪問し交流再開
- 2013 ふくしま再生の会との協働始まる
- 2014 桜の植樹会に100名超参加、飯塚夫妻迎え、桜の案内看板除幕式挙行
- 2016 桜の植樹と再生の会カタクリツアー
- 2022 第25回いきいき長寿県民賞受賞。